

群馬県立玉村高等学校 学校評価一覧表 (令和5年度版)

(別紙様式)

評価対象	羅 針 盤		方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1) 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	i 全職員共通理解した上で、言葉遣い、挨拶、マナー、身だしなみ等の指導を行い、生徒にはその指導は進路実現に向けて必要不可欠であることをきちんと理解させる。【生指・進路】 ii 生徒に生活の中心を学校に置かせて、授業や行事において生徒が達成感を感じたり、自信を持てるよう、集団とともに個人を大切にしたい指導を展開する。【教務】	B	B	B	・「玉村高校が好きだ」と感じている生徒は、82.3%であった。生徒が学習だけでなく学校行事・探究活動にも主体的に取り組める指導を行っていることで、目標値を概ね達成することができた。様々な発達課題や進路希望を有する生徒が在籍する中で、今後も、学校全体で指導方法の検討・共有を随時行い、生徒が自己肯定感や自尊心を高められる活動の場を設定することができればと考えている。	・学校が好きで生徒との回答が80%になっており、学校生活が充実していると感じる。授業参観においても、生徒が生き生きと笑顔で頑張っている姿が見られた。地域に密着した指導を評価します。今後さらに生徒が多様化したところも考慮されるが、生徒が安心して登校できる学校であって欲しい。
		(2) ぐんまチャレンジ・ハイスクールとして本校の取組である「基礎・基本の充実」「コミュニケーション力の育成」「進路選択力の育成」を意識して、自分のキャリアアップの向上を目指している生徒が70%以上である。	i 進路行事、学校設定教科「教養表現」を中心として、すべての教科において、ぐんまチャレンジ・ハイスクールの「基礎・基本の充実」「コミュニケーション力の育成」「進路選択力の育成」を意識した授業展開を図る。【教務・進路】 ii 教養表現の学習内容にピリオバトルを組み入れ、生徒の表現力を高める指導を行う。	A	A	A	・3年間を見通した学習計画「玉高チャレンジプラン」に基づき、80.6%の生徒がキャリアアップを目指しているという回答となった。今後も「玉高チャレンジプラン」の取り組みを継続・発展させることで、他の授業・行事でも生徒のキャリアアップが指導できるよう、職員研修の充実を図る。 ・ピリオバトルには全学年が取り組み、生徒の表現力を養う授業に寄与することができた。	・ぐんまチャレンジハイスクールの取り組みにより、自分のキャリアアップの向上を目指している生徒と、学校が好きな生徒がともに、80%と回答している。あらゆる活動で、先生と生徒が信頼関係を築きながら、同じ目標に向かって取り組んでいるように感じる。
		(3) 英語Ⅰ(英語ⅠⅡ)・英語Ⅱの少人数制および数学ⅠA・精選数学の習熟度別の授業、情報Ⅰ・情報処理実習、情報表現実習、表現基礎・マナーと表現Ⅱのティーチング(T.T)の授業形態に、生徒の85%が満足している。	i 教育課程委員会において、生徒の実態に則した教育課程を検討する。【教務】 ii 生徒についての情報交換や学習内容に関する意見交換(職員会議・学年会議等)を行い、指導方法の改善を図る。【教務】	A	A	A	・英語・数学・表現の授業において、いずれも85%以上の生徒が、本校の特色である習熟度別、少人数、T.Tによる授業に満足している。今後も少人数授業、習熟度授業、T.Tによる授業を継続し、基礎学力の一層の定着を図る。また、学校設定教科の学習内容を精査し、より工夫した授業展開を図る。	・アンケート結果から、生徒が将来を見据え、意欲的に取り組んでいる姿がみられる。ICT機器の活用も進んでいる。生徒の実態をあげていることがわかる。このほかにも、生徒の実情にあったきめ細やかな学習指導について考え、指導法を模索していった。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(4) 授業がわかりやすいと感じている生徒が85%以上である。	i すべての科目において、ICTを活用した効果的な指導や書字・読書に困難を抱える生徒に対する学習支援を実施する。【教務】 ii 「学び直し」の視点を取り入れた生徒にとってわかりやすい授業を展開する。【教務】 iii 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に向けた職員研修を積極的に行う。【教務】	B	B	B	・授業アンケートの生徒の回答では、肯定的な回答率が各授業で80%を超えている。生徒の実態を考え、ICT機器の活用も含めた、わかりやすい授業の工夫ができています。今後もわかりやすい授業を目指していくとともに、単元の評価規準・単元の目標・授業計画・総括(評価)の方法等をしっかりと作成し、育てたい力を意識した指導を行っていく。	・授業がわかりやすいとの回答が80%以上というところが、成績の向上にも見られると思っております。これから一人ひとりにあった指導をお願いしたい。「インターンシップ報告会」での発表会では、自己実現に向けて頑張る高校生の姿を見ることができました。
		(5) 図書通信(Library)を定期的に(発行予定12回)に発行し、多くの生徒に図書館を利用してもらう。	i 朝の読書推進委員会を開き、朝の読書の推進・改善・充実について検討する。【教務】 ii ICTを活用し、様々な方法で、本や図書館についての情報発信を定期的に行う。【教務】 iii 図書館に足を運んでもらえるような環境・雰囲気づくりに力を入れ、生徒の読書意欲を喚起する。【教務】	A	A	A	・図書通信の発行、図書委員会の企画、授業と連携したピリオバトルの実施など、多くの授業・行事等で図書館を活用してもらえるような取り組み(広報活動、環境・雰囲気づくり等)を検討・実施してきた。図書館の貸出冊数は全体としては昨年度に比べ減少(一人平均5.1冊→4.3冊)しているが、取組の充実に伴い、2学期はむしろ増加している。これからもこの取組は継続・発展させていきたい。また、図書館の活用を促進するため、授業における図書館の利用年間計画を作成する。	・読書離れが進むといわれる状況の中、朝の読書、授業との連携のみならず、学校行事(ピリオバトルなど)にも取り入れるなど、生徒への図書館利用の促進へ向け、積極的に読書に対する興味を持たせる努力をしていることがわかる。今後もこれらの取り組みを継続し、生徒たちの読書意欲を高めていきたい。
		(6) 学力が身についたと感じている生徒が、75%以上である。	i 指導と評価の一体化による授業改善を推進し、生徒の基礎学力の向上と定着を図る。【教務】 ii 放課後の補習や課題の指示を積極的に行う。【教務】	A	A	A	・「学力が身についた」と感じている生徒が88.0%となっている。高い数字が出ている理由として、授業がわかりやすいという回答が高いことが関係していると考えられる。今後も生徒の学習状況や個性を把握し、教育的な配慮も取り入れながら、わかりやすい授業の推進を心がける。また、多様な生徒の実情を考慮し、学習への遅れがないよう個々への指導(定期考査前の補習等)も行っていく。	・学力が上がっているとの回答結果がでていたことは良いと思う。少人数制の授業など、生徒の実態に合った授業を行っていることがうかがえる。様々な生徒がいる中、改善が必要なことでもてくれると思うが、今後もよりよい授業をめざしてまいります。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	(7) 各種検定や資格取得を推奨し、のべ500人の生徒が検定等に挑戦し、50%以上の合格率である。	i 資格取得の意義について啓発指導を行った上で、日本語学能力検定・実用英語技能検定・家庭科技術検定・全商ビジ文書実務検定・全商情報処理検定などの検定試験を校内で実施する。【教務】	B	B	B	・のべ受検者数は459名で、全体合格率は66.4%であった。今年度は感染症の影響で昨年度を下回る受検者数となったが、合格率は上昇している。取得に向けた目的意識を持たせることができていたと考えている。今後も、各検定に向け、それぞれさらに改善できるよう取り組みを考えていきたい。また、計画的に学習を進められるような指導、活動場所の提供など、目標達成できるような、環境をつくってきたい。	・自分の学力がついてくると、いろいろなことにチャレンジしてみたいと感じる生徒が増えていく。この結果として、合格率が上がっていると思う。資格の必要性を伝え、これからも生徒の意欲向上に努めていきたい。
		(8) 朝の玄関指導、あいさつ運動を1学期に30日、2学期に40日、3学期に30日以上実施する。	i 玄関指導を通じ、基本的な生活習慣の確立を図る。【生指】 ii 風紀委員、生徒会本部役員も参加しあいさつ運動を実施。学校への帰属意識や社会性を身に付ける。【生指】	B	B	B	・風紀委員会、生徒会本部役員と職員合同であいさつ運動を計画どおり行い、職員による玄関指導・あいさつ運動をほぼ毎日行っている。日頃の指導から生徒の把握に努めるとともに、生徒が一体となって学校を作っていく意識を育む機会としていきたい。	・朝のあいさつ運動、町の行事等でも、玉高生が自ら進んで挨拶に来てくれる。あいさつは人間関係における基本だということも、身に付けてほしいと思っている。玉高の「学校中心の生活をしよう」という指導の一環として、今後とも指導の継続をお願いしたい。
		(9) 情操教育を目的とする花いっぱい運動を1・2学期に1回ずつ実施する。	i 1年生全体で、計画的に実施する。【保健施設】	B	B	B	・玉村町社会福祉協議会と連携し、1学年が取り組んだ。目的と意義を理解させ、定植に留まらず、当番による毎日の撒水など、道徳教育の一環として取り組むことができた。今後も引き続き、道徳教育の充実をいろいろな形で図っていく。	・花壇がきれいに整備されている。花がある校庭は素敵だと思う。継続してほしい。
		(10) いじめの防止や早期発見に努め、いじめの解消率が100%である。	i 人権やいじめに関するアンケート調査を実施し、いじめの未然防止、早期発見及び早期対応に努める。【教務・生指】 ii 集会時人権やいじめに関する話題(特にSNSに関するトラブル等)を取り上げる。また、LHR等で人権や道徳に関する学習活動を実施する。【教務・生指・道徳教育推進】	B	B	B	・全校対象のアンケートを年4回実施し、職員会議で時間を掛けて情報共有を行った。また、問題発生時には、関係職員が連携し、早期に対処することができている。現状でできる案件での解消認定をすることができた。今後も、問題を未然に防ぐために、日頃の指導から生徒の人権意識や道徳的な価値観を高めるとともに、いじめに関する生徒の意識改革を図る。また、からかい程度の小さなことでも、早期に対応できるよう、生徒の状況把握に努めていく。	・人間関係が複雑化し、なかなか口にするのは勇気が必要となる状況のなか、いじめの問題に対して小さなことから自ら向けていくことは、保護者からも助かると思う。今後も、生徒の実態把握に努め、丁寧な指導をお願いしたい。
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(11) 1日の遅刻率を1.5%以下にする。	i 遅刻時の家庭連絡を徹底する。【学年】 ii 遅刻・欠席グラフの作成を通して、現状の可視化を行い、指導の機会を増やす。【生指・学年】 iii 学年指導や成績並びに生活改善保護者会を開催し、生徒の反省と改善を支援する。【学年・教務・生指】	C	C	C	・2学期末までの遅刻率は、理由は様々であるが、2学期に増加し、3.0%となった(昨年度から1.1%増加)。遅刻改善のために、状況をしっかりと踏まえた上で、各生徒に合った指導を行っていく必要がある。また、自己管理能力を養う一歩として、生活の中心を学校に置かせるよう生徒・保護者に呼びかける。	・欠席・遅刻が増えたという点は残念である。理由は様々であると思うが、時間を守ることは、社会でも問題に直結する。生徒に基本的なルール遵守の態度や基本的な生活習慣を身に付けさせ、「当たり前」のことにやらせさせる。厳格な指導を希望する。	
	(12) 服装を正し、場に応じた適切な声量で用件を伝えることができる生徒が90%以上である。	i 校内におけるマナー指導を実施する。【学年】 ii 全職員で入室時の作法に関する指導を徹底する。【生指・進路】	B	B	B	・93.1%の生徒、85.0%の教員が、「職員室に入室する際に服装を正し、適切な声量で用件を伝えることができた」と回答している。我々職員が日頃のマナーも含めた入室指導の方法を次年度も引き続き継続させていきたい。今後も、礼儀正しい態度を身につけることの意義を、あらゆる場面において粘り強く指導する。指導を受けながら、自分が自信をもって社会の一員として生活できるように努めたい。	・服装に関しては、目についてしまうことがありました。あいさつも大切だが、学校以外でも身だしなみは人に見られると自覚してほしいと思う。今後も、生徒が社会人となったときに困らない指導を継続して欲しい。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	(13) キャリア教育につながるよう、外部機関や外部人材を活用した進路行事を各学年とも年4回は実施する。	i 総合・LHRの時間を利用して、生き方に関する指導や職業観の育成につながる講演会や学習会を実施する。【学年・進路】	A	A	A	・充実したガイダンス等を各学年とも年4回以上実施し、生徒の進路意識向上に役立てることができている。学校内での活動のみでなく、今後も、現在行っている(外部講師の活用等)を継続し、生徒にとって必要と考えるキャリア教育を行っていく。また、さらなる有効な行事等の試みも模索していく。	・企業とタイアップし、各学年にあったガイダンスを数多く行うなど、進路意識向上が計画的に図られている。また、玉高は、外部講師の活用を積極的に進めており、社会へ出て立つことを学ぶ機会として、大変有意義である。小規模校ならではのきめ細かい対応ができていくことは魅力である。
		(14) 進路通信を定期的に発行する。(発行予定12回)	i 実情に即した進路情報提供と意識啓発を目的とした「進路通信」を毎月発行する。【進路】	B	B	B	・定期的に発行することができた。今後も、定期的な発行により、生徒及び保護者に十分な情報提供を行い、生徒・保護者の更なる進路意識の向上、さらに進路実現に繋げていきたい。	・生徒だけでなく保護者に対して情報発信していくことは、とても必要なことである。ただ、アンケートの内容をみると、学校の配付物が必ずしも、保護者まで届いていない部分も見えるので、この点については、何らかの指導・改善の必要性を感じる。
	(15) 学校をあげて進路実現を支援していると感じている生徒が80%以上である。	i 時宜に応じた効果的な進路情報の提供と、生徒の進路課題と指導方針の共有化を図る。【進路】 ii 情報交換会や成績会議における情報共有を更に進めるとともに、二者面談・三者面談などをおして生徒・保護者の進路希望の把握・実現に努めていく。また、進路に関する課題については、進路指導部が中心となり、生徒の進路に向けた意欲と態度を身につけさせるための有効な指導を模索し、各生徒の実態に合った進路学習を展開していく。	A	A	A	・92.6%の保護者が「玉村高校は学校をあげて、生徒の進路実現を支援している」と回答。情報交換会や成績会議等における情報共有を更に進めるとともに、二者面談・三者面談などをおして生徒・保護者の進路希望の把握・実現に努めていく。また、進路に関する課題については、進路指導部が中心となり、生徒の進路に向けた意欲と態度を身につけさせるための有効な指導を模索し、各生徒の実態に合った進路学習を展開していく。	・学校をあげて生徒の進路実現に向けた指導を支援をおこなっていることは充分感じる。教師間で生徒に対する指導がふたつあるように、今後も充実した情報の発信・収集・分析を続け、面談等を通して生徒理解を深め、全員の進路実現に向けて支援して欲しい。	
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(16) 進路行事に積極的に参加したと自己評価している生徒が85%以上である。	i 体験的学習やグループワーク、全体発表などの授業形態を取り入れることにより、進路行事へ参加する意識を高める。【進路・学年】	B	A	B	・86%の生徒が「進路行事に積極的に参加することができた」と回答している。今後とも学校内のガイダンス、校外における「進路相談会」等への積極的な参加を推進して、進路意識の定着を図りたい。インターンシップに関わる進路学習だけでなく、各行事において、生徒自らが進路実現に向け考え、行動することができるよう指導をおこなっていく。	・回答より、生徒一人ひとりが将来のことを真剣に考えていることがわかりました。キャリア教育に関する多種多様な行事やイベントが計画・実施されていて、とても立体的なアプローチになったと思う。目標に向かう生徒の後押しをこれからもお願いしたい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(17) 学校の教育活動を人々に理解してもらうために「学校公開」を年4回実施する。	i 5月のPTA総会の時に公開授業を実施する。【教務・渉外】 ii 1・3学期にオープンカークを実施し、玉村町回覧板に掲載するなど、広報活動を行う。【教務】 iii 11月の学校説明会の時に公開授業を実施する。【教務】	B	B	B	・学校説明会・オープンスクールを各2回実施。Webページの内容を充実させることで本校を広く知ってもらうことができていると考える。今後も、ホームページを通して、本校の特色を含めた学校紹介や最新情報を発信する一方、様々な機会を生かし、玉村高校を伝えることを特色とする。	・学校説明会、オープンスクール等の学校公開を実施し、学校を知ってもらうとともに、学校の外部からの評価を知る上でも大切と考える。今後も継続して欲しい。また、保護者にも学校に関心をもってもらう機会としても期待する。
		(18) 本校の教育活動を地域・保護者・中学生等に理解してもらうため、Webページの充実を目指し、更新を月に4回行う。	i 本校の行事や部活動実績について、終了次第なるべく早くWebページに掲載する。【教務】 ii Webページに各種案内を掲載する。【教務】	A	A	A	・一年を通じ、学校説明会の案内、学校行事等、Webページの更新を随時行うことができた。学校外の方は、Webページで本校の情報を得ることとなるため、今後もWebページの更新を適宜行い、中学生・保護者により深く本校への興味・関心を高めたい。また、玉村高校がよりよくなるための地域への関わり方も考えていきたい。	・HPや学校案内のパンフレット等で、生徒の活動写真が多く掲載されており、玉村高校の良さが周知できる内容となっている。また、議会との連携など、玉村高校が学校外への放送・掲載で扱われることもあった。地域の方に存在価値を知ってもらえることで、玉高もよりよくなっていくと思う。
		(19) 学年保護者会等に参加している保護者が80%以上である。	i 入学式後に1学年の保護者会を実施する。【1学年】 ii 2学期、修学旅行に関する保護者会を実施する。【2学年】 iii 1学期、進路や卒業準備に関する保護者会を実施する。【3学年】	B	B	B	・各学年で必要な課題を明確にすることで、各学年の保護者会の参加率は90%以上であった。日頃より、学校の取り組みへの理解を深めてもらえるよう努め、家庭との連携を密にすることで、保護者会の出席率をより高めたい。	・保護者の方が積極的に保護者会等に出席していることは、家庭との連携を密にしているからだと考える。授業公開等で、少しでも学校で頑張っている姿を見る機会があればありがたい。
		(20) 学校通信を各学期ごとに発行する。	i 校務委員を中心に、各学期毎に学校通信(はるくぶ通信)を発行し、地域への回覧を依頼する。【校務】	B	B	B	・学校通信の発行は費用対効果の観点から年度途中に見直しを行い、紙媒体での配布は保護者用に留め、地域への周知はweb掲示に集約した。効果的な周知方法について、引き続き検討を重ねていきたい。	・保護者、地域住民に向けて、随時有益な情報発信を今後も継続して欲しい。
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	(21) 生徒の70%以上が、ICTを活用した授業に、満足している。	i ICTを活用した授業の仕方のための全体研修や各自の見直し等をおこないつつ、ICTを用いた授業の量および質を上げていく。また、Googleフォームやスタディーサプリを活用することで授業の効率化を図る。【教務・進路・渉外・保健】	B	A	B	・全校生徒がアクセスできる環境が整っており、Googleクラスルーム、フォームを活用して、各アンケートを実施し、活用している。これにより、情報集約の効率化や、職員の業務負担の軽減に繋がっていった。	・ICTの利用で、生徒が理解しやすく効率的な授業づくりにできていると評価します。ICTの活用は、これからは不可欠なことになると思うので、世の中動きを取り入れた幅を広げての活用を期待しています。効率的な活用により、業務軽減が可能となることも期待します。
		(22) ペーパーレスの職員会議を10回以上実施している。	i 職員用のGoogleクラスルームを作成し、各自のアカウントを用いて共有フォルダ内の資料を閲覧する形態で職員会議を行い、業務の効率化とペーパーレス化を図る。【教務】	B	B	B	・朝会、校務委員会、職員会議のほとんどの資料で、ペーパーレス化を行っている。一方で必要な情報は、確認・集約をしっかりと行うなど、情報共有のミスのない学校運営に努めていきたい。	・ICT機器を活用してペーパーレス化が進む取り組みは、大変良いことである。そのうえで、しっかりとした学校運営をこれからもおこなってほしい。